

実施日 平成十五年十月十七日 実施クラス 普通科 二年次・三年次 指導者 吉田 矩彦

科目名 現代文 指導領域 「話すこと・聞くこと」

単元名 随筆 自然と人間 教材名 教科書名 新現代文(明治書院) 「教材名」 「水仙の花」

指導事項 文章を読み、そこに敷衍した事柄について話し聞く。

単元の目標 現代はまことに不確定な時代である。医療技術の進歩や食生活の改善によって、人間の長命が図られる一方、環境汚染や大規模な事故、戦争、テロなどによる死への恐怖が人々の生活に浸潤してきている。二一世紀は、時代の大きな転換が予想され、そこで重層的に派生してくる様々な根深い問題に、既成の価値観や考え方ではそれに対応できなくなってきた時代でもある。ここでは、人間の命に対する考え方が、生命科学や環境工学・医学などによってのみならず、我々の身体性や深層の現実に対する無感覚さも根本から問い直されなければならない。学習者は自己と自己を取り巻くものへの率直かつ柔軟な目を向けそれらの深い省察を行うことが求められる。そして、このことは、知識・情報のみならず、生活・表現においても真に豊かな人間への形成へと繋がっていくことになる。本単元はこうしたならいを随筆というジャンルにおいて学習し、拡大深化させていこうとするものである。

評価観点と 関心・意欲・態度…… この作品をとおして命あるものに向けての省察の態度を養う。

評価規準 作者の彫刻作品についての鑑賞のしかたを学ぶ

知識・理解 …… 簡潔に彫啄された端正な文章を理解し、親をとおした命の表現を学ぶ。
話す・聞く能力 …… 授業をとおして聞きながら鑑賞する態度を学ぶ

年間指導計画における位置付け 年間配当時間は一年三十五週、四単位とし、配当総時間は百四十時間とした。本単元は九時間で、本教材は四時間をあてている。

単元(本教材)の指導計画 一時間……… 生活体験の中から、思い出深い出来事を思い出す。通読。敗戦直後の生活状況を理解する。

二時間……… 一～四段落の精読。展開にともなって微妙に変化する筆者の心情を理解する。

三時間……… 五・六段落の精読。心に直接訴える随想のあり方を理解する。

四時間(本時) …… 作者の彫刻の身近な作品の紹介と鑑賞をする。

本時の目標 作者は岩手県出身の世界的な彫刻家であり、その芸術家の作品である「水仙の花」の舞台が本校の身近にあることを学ぶ。また舟越彫刻作品をとおして関心を喚起し鑑賞のしかたを学ぶ。

本時の目標			
過程	指導内容	学 習 者	活 動 者
入	・作品「水仙の花」についての復習	・前時までに学習したことを復習させ、敷衍した形で本時の導入にする。	・ノート、プリントの点検。
展	・一馬の墓 ・プレゼンテーションによる	・本校から、作品の「一馬の墓」までの道のりを説明する。 ・途中、南部家の墓、山口青邨の墓などについて短時間で説明する。 ・一馬の墓、教科書記述との整合性を眼で確認。父親の墓。家族がクリスチャンであったことを説明する。 ・盛岡市を中心に、紫波、花巻、北上などの舟越作品の紹介	・映像と説明を聞き理解する ・一馬の墓は学校から歩いて十五分の場所にあることの確認。 ・南部家の墓、山口青邨について知る。
開	・身近な舟越保武作品 ・品鑑賞	・鑑賞のしかた。具象と抽象の違い ・具象と写実の違い。 ・舟越保武の目指したもの。	・自分たちがよく行く場所に舟越作品があることを認識する。 ・彫刻の表現についての知識、具象・抽象写実などについて学ぶ。
め	・身近にある偉大な彫刻	・周りには、よく見ればたくさん彫刻作品がある。芸術を大切にし、鑑賞する心を持つ。	・彫刻の表現の違い。映像による作品鑑賞の入門を理解する。
備考	「巨石と花びら」「病醜」「原の城」「断腸記」		
			評価の規準と 評価方法 ・ノートが整理されているか。プリントが完成しているか。 【話す聞く能力】 ・イメージが教材とオーバーラップできるか 【話す聞く能力】 ・舟越作品が身近にあることに気付くことができるか。 【関心・意欲・態度】 ・彫刻鑑賞入門としての知識が理解できたか。 【知識・理解】